

埼玉医科大学短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 埼玉医科大学
理事長 丸木 清浩
学 長 丸木 清浩
A L O 和合 治久
開設年月日 平成元年 4 月 1 日
所在地 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
看護		100
臨床検査		40
理学療法		30
	合 計	170

専攻科および入学定員

専攻	入学定員
地域看護学	30
母子看護学	15
	合 計 45

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

埼玉医科大学短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

埼玉医科大学短期大学の設置母体である学校法人埼玉医科大学は、短期大学の他、大学、大学院、専門学校を擁する学校法人である。当該学校法人は、医療従事者を養成する目的で、以前より埼玉医科大学附属の医学技術専門学校、高等看護専門学校及び埼玉リハビリテーション専門学校を開学しており、医療の著しい進歩に伴い、単に医療に従事することだけにとどまらず、高度な専門知識と技術、そして、豊かな人間性を備え、社会の需要に応えて、現代の医学・医療に貢献し得る資質の高い医療技術者を養成することを目的として、既存の 3 つの専門学校を母体として埼玉医科短期大学短期大学を平成元年に開学した。現在、3 学科 2 専攻科を有している。

建学の精神として「真に求められる人間性、技術共に優れた医療技術者の育成」、「自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成」、「師弟同行の学風の育成」を掲げ、教育の目的として学則第 1 条に「医療技術に関する高度の理論と技術を教授研究し、あわせて豊かな教養と人格を備えて、広く国民の保健医療の向上に寄与することのできる技術者を育成すること」と示している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は確立しており、教育目的・教育目標も具体的に示され、かつ周知は徹底されている。

教育課程に関しては、各学科で現代医療に対応した高度な内容が盛り込まれ、基礎分野科目から専門分野科目まで充実していると考えられる。特に、基礎分野科目の充実は医療系短期大学として優れている。教科内容は学科の特徴に合致しており、資格取得に対応した教育課程として構成されている。資格取得への取り組みに関しては最大限の努力が払わ

れ、専門職への就職率もきわめて良好である。授業改善として学生・卒業生への授業評価アンケート、教員相互の授業評価も行われている。

学生支援としては、入学に関する支援体制、学習支援の組織的取り組み、学生生活支援体制、進路支援体制、多様な学生に対する支援のいずれにおいても、適切な対応が学科ごとにとられている。リメディアル教育及びクラスアドバイザー制度が機能し、また、訪問調査で見受けられた教員の学生への教育的関わりは評価すべきものである。進路支援においては、全学一律ではなく、むしろ各学科固有に実施されているのが特徴である。社会人の受け入れにも積極的に取り組んでいる。

医療従事者という貴重な人材養成の教育活動に多大な時間を割く中、各学科の所属教員の研究内容は多岐にわたり、活発な研究活動が行われている。

社会的活動として、医療技術者養成を中心に据えた教育課程では、組織的な社会活動に多くの時間を費やすことは困難であると考えられるが、教員各自が地域医療を担う教育者としての責任を認識し、保健医療活動への協力等、地域と連携した社会活動を実施していることは注目に値する。

理事長は、短期大学の学長を兼務しており、十分にリーダーシップが発揮されている。理事会は規程に基づいて開催され、適切に運営されている。監事及び評議員会も、寄附行為に基づき適切に業務を執行している。

財務については、財務規程も整備され、適切に運用されている。学校法人の財務計画を長期計画として策定しており、年度予算の執行及び年度決算は適正である。会計監査・監事も有効に機能している。また、財務情報公開要領を制定し、閲覧に供している。

自己点検・評価活動の実施体制が確立しており、継続して改革・改善のためのシステム構築への努力が見られる。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 卒業生による授業評価を実施し公表している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 卒業生に対するアンケートを数値化し、教育内容や方法に反映している。

評価領域 学生支援

- ・ リメディアル教育だけでなく、成績優秀者に対する表彰制度を設けて、勉学意欲を高めている。

評価領域 研究

- ・ 個人研究、共同研究とも、研究内容が多岐に及び、国外においても発表されている。
- ・ 外部への研究助成金申請も精力的に行われており、学内においても特別研究助成制度を設け、その成果の公表を義務づけ、奨励している。
- ・ 医療従事者を養成する学科として、日常的に行われている研究懇話会での授業研究や教育実践に関わる研究も活発に行われ、論文、報告として成果が公表されている。

評価領域 社会的活動

- ・ 各学科の特質を活かした公開講座の開催、社会人の受入、研修生制度等による卒業後教育が行われ、また学生有志による学習内容を活かした地域活動へのボランティア参加も、教員からの指導・助言を受け活発に行われている。
- ・ 国際交流の一環として、看護学科ではフランスの病院への研修旅行が行われ、また複数の教員が、内外の国際機関からの依頼により、韓国での招待講演やパラリンピック主治医、JICA 専門委員、ベトナム・ラオス保健分野開拓調査団団長等として活躍している。この他、研究を中心とした国際会議への出席も行われており、国際交流、研究活動の国際化がなされている。

評価領域 財務

- ・ 資金運用については、運用の保障制度が導入されている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 就職先からの評価については、次年度の求人状況で判断しているにとどまっているが、今後は卒業生の追跡調査等具体的な取り組みが期待される。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし